

2018年3月3日（土曜日）もりの歴史を未来へつなぐプレイスメイキング ワークショップ2 AOBA FUN MEETING ～市民発の企画を考えよう 開催報告

■開催概要

日時	平成30年3月3日（土曜日）14:15～16:00
場所	東北大学百周年記念会館川内萩ホール2階会議室
主催	仙台市
運営	AOBA JV（ティーハウス・グラック・文化財保存計画協会設計共同体）
JV 監修者	槻橋、福岡、北川
JV スタッフ	井野、齋藤、岩田、古田、長澤
参加者総数	29名
開催目的	敷地のもつ資源・特徴を出し合い、土地の魅力の再発掘と企画提案。
プログラム	・グループワーク・発表 ・ディスカッション
配布資料	・付箋付次第 ・アンケート
グループ配布物	・青葉山公園マップ ・模造紙
展示物	・パネル（過去のワークショップ振り返り） ・模型

■グループワーク 14:15-15:05

参加者が青葉山公園周辺のお気に入りスポットや不便と思うスポットを付箋に記入し、青葉山公園のマップの該当部分に貼りました。付箋が貼られたマップを元に青葉山公園や公園センターを何度も訪れたくなるような市民発のワクワクする企画をグループ毎に考えました。

■発表 15:05～15:30

グループ毎に考えた企画、話し合った内容をマップを使いながら発表しました。

■第二部 ディスカッション 15:30-16:00

発表された企画についてJV監修者がコメントした後、さらに付け加えたいことなどを参加者が自由にディスカッションしました。



グループワークの様子



発表の様子



ディスカッションの様子



ディスカッションの様子

<発表内容>

Aグループ

・「地形を感じ馬と一緒に歴史を感じる」がテーマ。

企画

- ・地形に着目をして、地形の違いを楽しむ。対岸の河岸段丘から美しく広瀬川を見える場所がある。広瀬川のみずべリングや、カヤックで楽しむ。
- ・馬に乗って、博物館脇から本丸へ登っていく。
- ・国際センターから扇坂を登って萩ホールに至る階段が整備されたので、川内エリアも合わせて一体的に活動の場とする。
- ・フィギュアスケート発祥として五色沼を活用する。
- ・八木山の香澄町から瑞鳳殿をいく道があるので、青葉城址、川内キャンパス、地形を感じつつ瑞鳳殿まで歩いて行く。

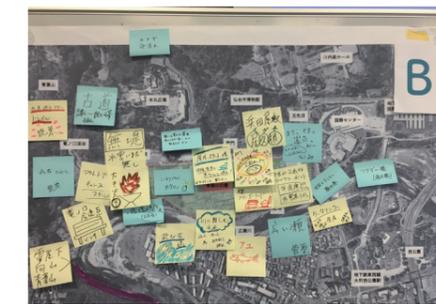


Aグループ

Bグループ

・キーワードとしては、広瀬川と古道の2つ出てきた。

1. 広瀬川 浅い石ころゴロゴロ、鮎など魚も多く、生き物に触れられる。水辺のアクティビティもできる。この地区がその発着地としての機能をもつとよい。
  2. 古道 山の中の古道がかなりあちこちにあるが、手入れをしないと、道がなくなってしまうところがあるので、整備を少しして、古道めぐりなどをしてルーラルラーニングができればよい。
- その他
- ・無堤区間は貴重なので、ぜひそのまま残してほしい。
  - ・浜田屋敷の樹種の記録が残っているのでその樹種を参考にして公園センターに植栽していくと居久根がどういうものかわかる施設になる。
  - ・冬場集客が良くないことを予想して、スケートリンクを作るとフィギュアスケート発祥の地として良い。羽生選手、荒川さんに来てもらう。
  - ・アイデアが沢山あるので、公園センターがハブになって、アイデアを受取り、コーディネートをして、青葉山の周りへ発信していくと、市民が集まってくると思う。その為にも外電源や外倉庫、イス・テーブルの備品などを用意する。ケータリングでマージンを取って行くといい。



Bグループ

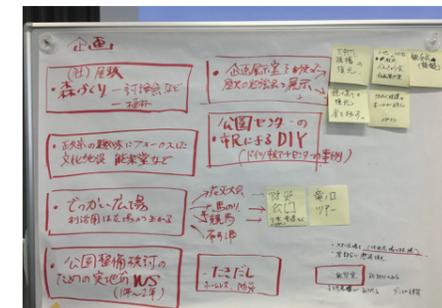
Cグループ

気になるところ

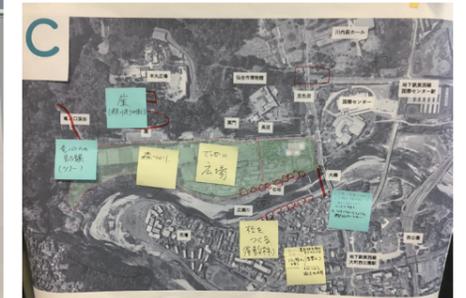
- ・本丸広場の崖や大橋の電線など。

企画

- ・もりづくり。林を先に作ってしまうのではなく、一緒に市民を巻き込んでいく。
- ・政宗の趣味にフォーカスした企画。500人規模の能楽堂を作って能をする。
- ・中央広場を拡張して、花火大会や馬乗り、布引き馬、草競馬など。
- ・防災公園としても考える企画。（下水、電源を考慮）
- ・企画ギャラリーを使った企画。歴史検証だったり、すでに市民活動として既存の団体がたくさんいるのでそういう方を巻き込んでいく。隅櫓、懸造の復元、崖の保全などを考える。
- ・追廻の歴史にちなんで、模擬的な観兵式を実施。
- ・建物は市民によってDIYで長年かけてつくる、修繕も行う。（ドイツのアートセンターが事例。）
- ・敷地で今からプレハブにおいて1～2年かけながら活動を始めてしまい、公園自体の必要なものを考える企画。（検討期間が今は足りない印象がある為。）



Cグループ-1



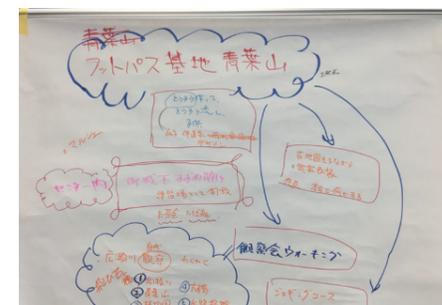
Cグループ-2

Dグループ

- ・敷地近くには良い自然がいっぱいあるという話から進んでいった。

企画

- ・フットパスの基地として、水路や古い橋脚などを見ながら、歴史と自然を子どもたちと学ぶ。
- ・公園センターの中で御城下すずめ踊りの練習風景を公開することで、観光客も仙台の市民活動を見ることが出来る。
- ・江戸時代風の衣装（袴など）をみんなに着てもらい、登城路を歩いて本丸跡地まで歩く。
- ・子どもたちが楽しめるような企画として、灯籠をつくり広瀬川に流して景色を楽しむ。
- ・和室でいろんな流派のお茶会やたぎぎ能をしたり、マルシェをしたりすると人が集まる。集まった人の中から、さらに企画立案する人が出てくると良い。



Dグループ-1



Dグループ-2

## E.グループ

### 気になるところ

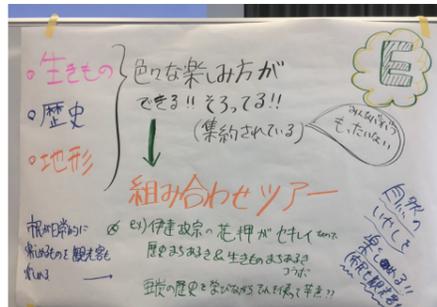
- ・大自然が感じられる場所だが竜の口の奥ではブルーシートの方が占領してなかなか楽しめない。

### 企画

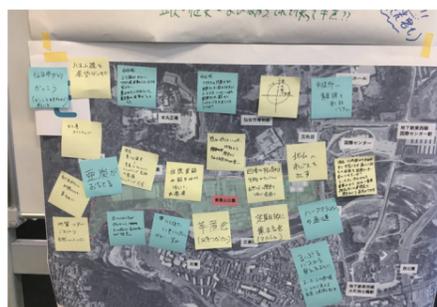
- ・野鳥観察のグループ、歴史のグループ、地質のグループなど様々なグループがあり、そのグループの人たちが一緒に企画を考える。
- ・伊達の花押がセキレイなので歴史と野鳥を組み合わせたツアー。亜炭が取れるのでそれを使っての芋煮会や埋れ木細工体験。

### その他

- ・観光客は本丸まで行くのが大変なので一ぶるを伸ばす。北山と川内駅はバスで往来できるが、国際センターとの往来ができるようにすると観光ルートとして使うことが可能。



Eグループ-1



Eグループ-2

## <ディスカッション内容>

- ・伊達政宗ツアーでは、瑞鳳殿、仙台城、青葉神社の3ヶ所に行くと良いが、青葉神社への交通のつながりが無い。仙台駅から瑞鳳殿はあるが、国際センター駅も組み込んでシャトルバスでつないだらどうか。公園センターを始発にしてバスを通し、市民も観光客も楽しめる場所にしたい。

- ・公園センターができれば収益は発生するのか？

→概橋) 運営方針はこれから行うことになる。

- ・最近公園の駐車場が有料で、これが収入源として大きい。自販機や企業の協賛を得ながら、公園のブランド化を進めていけるようにする必要がある。大阪城公園の場合は、民間が稼いで市に納めるほどである。青葉山公園は人を呼ぼうと思えば呼べる公園である。そのために、アクセスやPRなどで人を集めて、ハードをあわせて、市全体でサポートしていくのが良い。

- ・竜の口は立入禁止になっているが、歴史のとても濃い場所である。落石などの自然災害は予防できないことである。自身では登りやすいように階段を作っており、みんなが使っている。冬もつらななどで素晴らしい場所である。公園ができればぜひ奥にいく体験をしてほしい。竜の口は立入禁止だがあきらめずに、良い場所をつくる努力をしよう。

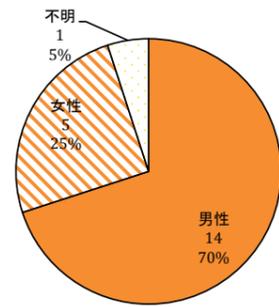
## <まとめ>

公園センターがハブとなって色々なこととつながっていく事が大事なのがよくわかった。頂いた意見はまとめて、公園センターなどに反映していければと考えている。暖かくなったので、一度現地のフィールドワークなども企画できたらいいと考えている。(概橋)

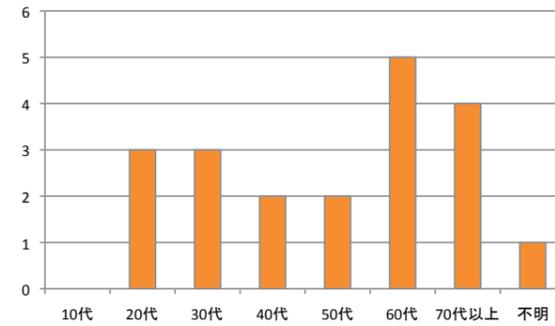
## <アンケート結果>

参加者 29 名のうち、20 名から回答をいただきました。

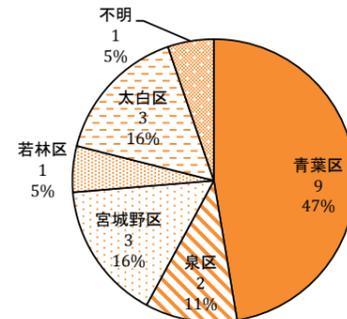
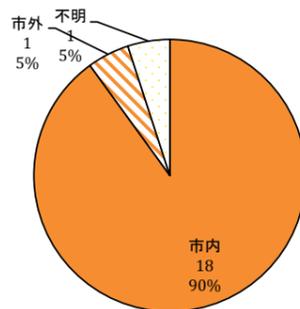
### 02. 性別



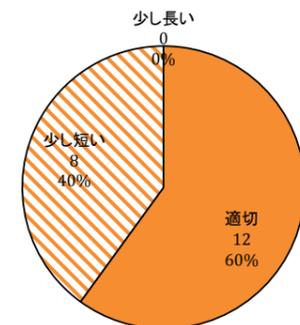
### 03. 年齢



### 04. お住まい



### 05. ワークショップの時間の長さについて



- ・ワークショップの長さが適切という意見が多かったですが、少し短いという意見もありました。

## 06. ワークショップに関するご感想・ご意見

- ・ワクワク感、夢が広がるたくさんのアイデアが話できて良いワークショップでした。完成したらさぞみんなでワイワイやれる場所になるのでは？世界のあちこちからもぜひ訪れて貰いたい仙台特有の場所を～！！
- ・多様な意見、年代別の意見があり良かったと思います。
- ・竜の口のお話が聞けてよかったです。
- ・各グループから出たたくさんの企画がおもしろかった。このようなワークショップをもっと続けて計画をもっと盛り上げていったら良いと思う。
- ・運営も大事だと思いますし、パークマネジメントを考え方に組み込んだら良いと思います。
- ・はじめて青葉山に来ました。勉強になりました、良い公園になってほしいです。
- ・ワークショップはいつも座学ぽくなっている。現地を回りながらの作業だともっと各自。皆さん広瀬川や仙台を大切にしていることを知ることができて楽しい。
- ・メンバーが毎回入れ替わるので、新鮮でした。
- ・様々な考えがあつてとても参考になりました。共通していることは、青葉山が観光資源として全然いかされていないということかなと思いました。あと付箋に書き忘れましたが、観光客の方たちに青葉山を楽しんでいただくためにも、コインロッカーはあった方が良くないかなと思いました。伝統工芸の体験などもできるとよいと思います。
- ・センターの運営が必要。活用のための施設計画、シェアキッチン、ミーティング室、インフラ（ガス、水道、電気、下水）の整備。マルシェ、映画祭、朝市、夜一、食など。
- ・広く意見を聞くことはとても大事だと思います。思いもよらないアイデアが出て、聞くことも多かった。マルシェはぜひ必要と思う。このセンターを起点に、運営の仕方で市民の（ひいては観光客などの）興味や活動は無限に広がると思う。
- ・大変参考になりました。参加者の意見はそれぞれが見る方向が違い、もっと個人意見を聞きたかったです。
- ・ディスカッションの時間楽しかったです。自分の考え方の尺や視点が変わるので仙台市の方々のトライに拍手です。ぜひもう少し回数あるといいと思っています。運営は稼ぐことを考えていく時代だと思います。学生のいる建築科、工学部等でチラシを配布したら若い人も集まるのでは？
- ・様々な活動をされてきた方々の意見を聞けて有意義だった。
- ・いろんな意見を持った人とのシャッフルグループで企画を考えさせるのも良いが、ある程度年代や趣味の近い人でのグループを作ったの検討もありかと。
- ・課題とその解決策としての企画という試みが面白かった。いろいろな課題が見えてきたと思う。
- ・面白かったです。青葉山を総合的に考えてこなかったという事を判りました。これを機会に行政側として総合的に考えていただけることを希望します。